

<宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター開館 20 周年記念>

## 伊豆沼・内沼生物多様性シンポジウム

～生き物の豊かな沼を守るために～

日時：平成 23 年 1 月 15 日（土）13：30～17：00

会場：エポカ 21

主催：財団法人宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団

後援：環境省東北地方環境事務所、宮城県、栗原市、登米市、大崎市

※この事業は、アサヒビール株式会社「うまい！を明日へ」プロジェクト・平成 22 年度観光エコ活動推進事業で行なわれています。

### ----- プログラム -----

13：30～13：35 開会のあいさつ

13：35～14：05 基調講演 1

「伊豆沼・内沼の生物多様性」

山形大学理学部

横山 潤 氏

14：05～14：35 基調講演 2

「北海道ラムサールネットワークと自然再生」

北海道宮島沼水鳥・湿地センター

牛山克己 氏

14：35～15：20 ポスター発表

（タイトル・発表者は次ページに掲載）

15：20～16：35 ラムサール条約登録湿地およびその周辺での地域活動（各 15 分）

「ハスの利用」

宮城県本吉響高校

鈴木 康 氏

「水田魚道とふゆみずたんぼの取組み」

ナマズのがっこう

三塚牧夫 氏

「ラムサール条約湿地 蕪栗沼・周辺水田 ヨシペレットとワイズユース」

NPO 法人蕪栗ぬまっこくらぶ

戸島 潤 氏

「化女沼を拠点とした「里地里山探検隊」の活動」

NPO 法人エコパル化女沼

遠藤洋次郎 氏

「シナイモツゴ里親制度とシナイモツゴ郷の米認証制度による市民・農民連携の自然再生」

NPO 法人シナイモツゴ郷の会

高橋清孝 氏

16：35～16：55 質疑応答

17：00 閉会

○伊豆沼に分布するツルスゲ（カヤツリグサ科）はどこから来たのか？

林 康央<sup>1</sup>・藤井伸二<sup>2</sup>・横山 潤<sup>3</sup>（1：山形大・理・生物，2：人間環境大，3：山形大・理・生物）

○ハス群落が伊豆沼の生物に及ぼす影響

高木優也<sup>1</sup>・鹿野秀一<sup>2</sup>・嶋田哲郎<sup>3</sup>（1：東北大・院・生命，2：東北大・東北アジア研，3：伊豆沼・内沼環境保全財団）

○伊豆沼・内沼の沈水植物群落衰退要因の検討 - 現存する情報からの推定 -

香川裕之・木村 啓・田村将剛・佐藤博信（東北緑化環境保全株式会社）

○伊豆沼畔人工池における池干しによる水環境変化

有田康一<sup>1</sup>・佐藤 歩<sup>2</sup>・進東健太郎<sup>3</sup>・小浜暁子<sup>4</sup>・江成敬次郎<sup>4</sup>（1：東北工大・環境情報工，2：東北工大院・環境情報工，3：宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団，4：東北工大・環境情報工）

○水鳥給餌池底泥における大腸菌群について

佐藤 歩<sup>1</sup>・小浜暁子<sup>2</sup>・有田康一<sup>2</sup>・江成敬次郎<sup>2</sup>・嶋田哲郎<sup>3</sup>（1：東北工大院・環境情報工，2：東北工大・環境情報工，3：宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団）

○伊豆沼集水域のため池における食物網の安定同位体分析

七尾友里瑛<sup>1</sup>・高木優也<sup>2</sup>・進東健太郎<sup>3</sup>・藤本泰文<sup>3</sup>・嶋田哲郎<sup>3</sup>・鹿野秀一<sup>4</sup>（1：東北大・理・生物，2：東北大・院・生命，3：宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団，4：東北大・東北アジア研）

○ハスの実の有効活用について

小野寺郁美<sup>1</sup>・吉田咲綺<sup>1</sup>・伊藤賢矢<sup>1</sup>・高橋祐美子<sup>2</sup>（1：宮城県本吉響高等学校科学部，2：宮城県本吉響高等学校）

○2つのラムサール条約湿地がある大崎市では、多様な生きものと共に暮らす循環型のまちづくりをめざしています。

三宅源行（大崎市産業政策課自然共生推進係）